

中高科へのヒント 7~9月

7/6

●話し合ってみよう

1. 父なる神は、何に譬えられているか。→ 農夫。
2. 主イエスは、ご自分を何に譬えているか。→ まことのぶどうの木。
3. 私たちは何に譬えられているか。→ ぶどうの木の枝。

●考えてみよう

1. 農夫がぶどうの木を育てる目的は何か。→ 豊かな実を得るため。
2. 枝が木につながっていなければぶどうの実がならない。このことは何を意味しているか。→ 私たちもイエス様につながっていなければ実を結べないということ。
3. 農夫が結実を得るためにすることは何か。→ 無駄な枝や葉を取り除くこと。
4. 農夫の手入れは、具体的に私たちにどのようにされることか。→ 私たちが神以外のものを、神以上に大切にしているならば、それを取り除かれる。

●自分に当てはめよう

1. 神は私たちにどのような実を結ばせようとしているか。→ 愛の実。
2. 具体的にイエス様につながるとはどういうことか。→ 罪深い私の罪のために十字架で死んでくださるほどに愛してくださった、イエス様を信じ、そのイエス様の愛の内にいること。
3. イエス様につながれて、聖霊を通して愛の実を結ばせていただくように祈る者であろう。

7/13

●話し合ってみよう

1. 「神にならう者になりなさい」とある。どういうことか。→ イエス様にならうということ。
2. 私たちの内にイエス様にならう力はあるだろうか。→ ない。しかし、神がその力を与えてくださる。
3. 神に愛されている子どもとあるが、これはどのような愛か。→ 御子をつかわして救ってくださったということ。

●考えてみよう

1. 神にならう生き方は、どうしたらできるか。→ 神の愛に生かされ御霊に導かれてできる。
2. 具体的にはどういうことか。→ 罪ある人も、精神的・肉体的に弱っている人々も愛して、その人のために喜んで犠牲を払う生き方。
3. 聖徒にふさわしい姿は、どのように表されるか。→ 不品行、汚れなどを口にしないところ。
4. 神があらゆる人々をも愛されていることはどのようなことで明らかにされたか。→ 罪人の友となり、貧しい人々を憐れみ、悪霊に捕らえられている人々を解放されたことによって。
5. 感謝が口から出るのは、何を信じることができるからか。→ 神の愛の計画。神は万事を益としてくださると信じることができるから。

●自分に当てはめよう

1. イエス様がどんなにかあなたを愛しておられることか。主がその愛の内を歩むようにしてくださると信じるか。

7/20

●話し合ってみよう

1. 闇の生活とはどのような生活か。→ いやらしいことを言ったり、人の悪口を言ったり、いじめたり、人の物を欲しがったり、神以外のものを神として拝んだりすること。
2. 逆に光の生活とはどのような生活か。→ 人に優しい言葉をかけたり、困っている人を助けたり、何事も真面目に行なう生活。

3. 光の子として歩むためにはどうすべきか。→ いつも光であるイエス様と一緒に歩むこと。
4. キリストと神の国を継ぐことができないとはどのような者か。→ 不品行な者、汚れたことをする者、食欲な者、偶像を礼拝する者。

●考えてみよう

1. 光の結ぶ実には何があるか。→ 善意、正義、真実。
2. 光の子として歩むことは、拒否することでもある。何を拒否するのか。→ 実を結ばない闇のわざへの参加を拒否すること。
3. イエス様が来られた目的をヨハネは何と言っているか。→ 私たち人間を苦しめている闇の力、罪をすべて取り除き、私たちを闇から光に移すため。
4. 闇の中に安住する者に耐えられないものがある。それは何か。→ 明るい光である。

●自分に当てはめよう

1. 光の中を歩むためにあなたはどうか。→ イエス様に喜ばれることを祈り行なっていく。

7/27

●話し合ってみよう

1. ここで、今はどんな時代だと言っているか。→ 悪い時代、悪が支配している時代。
2. 賢くない者とは、どのような者か。→ 神のことを全く考えない生き方をする者。
3. 「賢い者のように」とはどういう意味か。→ 学識ある者になれとか、聡明な者になれとかいう意味ではない。「主の御旨が何であるかを悟る者」になるようにということ。

●考えてみよう

1. クリスチャンの使命は何か。→ 墮落した世にあって、神を喜ばす生き方を実践すること。
2. 御霊に満たされるとはどういうことか。→ イエス様に喜ばれる生涯を送ること。仕えること。
3. 御霊に満たされて生きる生涯とはどのような生涯か。→ 今の時を生かして、イエス様に喜ばれる歩みを知り、行う生涯。
4. 聖霊に満たされた生活は、どうなるか。→ 賛美は神に向かってささげるもので、酒に酔っている歌は自己満足。賛美は、自分の満足のためではない。礼拝は、信仰生活の中心である。

●自分に当てはめよう

1. 私たちは聖霊に満たされることを願っているだろうか。
2. 主に喜ばれる歩みをしたいと思っているだろうか。
3. 私たちは今の時を生かして用いているだろうか。

8/3

●話し合ってみよう

1. ピリポ・カリザリヤとはどのような土地か。→ ガリラヤ湖の北方40キロほどの所にあった。ギリシャ神話のパンにちなんでパニ阿斯と言われた。後にヘロデ王の息子ピリポがこの名をつけた。
2. 人々は、イエス様のことを何と言っていたか。→ バプテスマのヨハネ、エリヤ、エレミヤ、預言者の一人。

3. 現代の多くの人は、イエス様のことをどのように考えていると思うか。→ 偉大な人物、世界の三大聖人の一人、人類の教師、理想的な人間など。

●考えてみよう

1. 「あなたこそ生ける神の子キリスト」と答えることができるのは、何によってか。→ 神ご自身の啓示。
2. ペテロは「生ける神」と言った。これはどのような意味か。→ 死せる神、偶像ではなくて、命のある、唯一の神。
3. イエス様は何の上に教会を建てると言われたか。→ ペテロの信仰告白の上に。
4. 教会に何が与えられているか。→ 黄泉の力を開くかぎが与えられている。

●自分に当てはめよう

1. イエス様は弟子たちに「それでは、あなたがたはわたしをだれと言うか」と尋ねられた。あなたは何と答えるか。

8/10

●話し合ってみよう

1. 主イエスが捕らえられた時、ペテロの心はどのような思いだっただろうか。→ ①キリストを慕い心配する思い。②キリストを捨てた情けなさ。③自分もキリストのように捕らえられるのではないかという恐れ。
2. 一人の女中に「イエスの仲間だ」と言われたとき、ペテロはどのような反応をしたか。→ 主イエスとの関係を全く否定した。

3. ペテロには主イエスの眼差しはどのように映っただろうか。→ ペテロに対する深い愛情に満ちていた。
4. イエスはなぜ(3.)のような眼差しをすることができたか。→ 信仰が失われないように祈っておられたから。
5. ペテロは外に出て激しく泣いた。ペテロの涙は何を意味しているか。→ キリストを否んだ自分の弱さの自覚から生じる涙。

●考えてみよう

1. ペテロの主イエスに対する裏切りは、彼を何に直面させたか。→ 丸裸の自我たる自己の真相。
2. 主イエスの眼差しは、希望を与えた。それはどんなものか。→ ペテロの認罪を促し、回復へと至らせるものとなった。

●自分に当てはめよう

1. あなたは神を悲しめた経験があるだろうか。そのようなとき、イエス様は私たちをどのように見ておられると思うか。

8/17

●話し合ってみよう

1. イエス様のお弟子は全部で何人か。→ 12人。
2. イエス様が弟子たちをお立てになったのは、何のためか。→ ①自分のそばに置くため。②宣教に遣わすため。③悪霊を追い出すため。

3. イエス様は、お弟子を選ばれるときに、単なる思いつきで選ばれたのだろうか。→ いいえ。真剣な祈りをしていること。

4. お弟子たちは、誰の心になかった人だったのか。→ 父なる神のみ心。

●考えてみよう

1. 主イエスがヤコブとヨハネに付けられた名は何か。→ ボアネルゲ(雷の子の意)。
2. (1.)の名はなぜつけられたのか。→ 彼らが短気で怒りっぽい性質であったため。
3. 主イエスは、ヨハネの性格を軽んじたり、疎んじることをしたか。→ いいえ。
4. ヨハネは愛の人に変えられた。それはどのようにしてか。→ キリストと出会い、交わり、聖霊を受け、キリストの愛に満たされたから。
5. ヨハネが愛の人と変えられたことは、どのように表れたか。→ ヨハネの書簡集に、愛についての記述が多いこと。

●自分に当てはめよう

1. 短気で怒りっぽかったヨハネを愛の人と変えられたイエス様は、私たちをもイエス様の愛に満ちた人と変えることができる方だと信じるか。また、変えられたいと願うか。

8/24

●話し合ってみよう

1. ヨハネは教会をどのような立場で指導したか。→ 使徒、長老として。
2. ヨハネは、宣教が進む中で生じるあることを知っていた。それは何か。→ 世が教会を憎むこと。
3. (2.)が生じる理由は何か。→ 世がねたみと怒りから、信じる者に逆らうことによる。
4. 憎悪とはどのようなものか。→ 相手がそこにいなければいいのにと願望。
5. ヨハネは、世がキリスト者を憎む場合でも、キリスト者は、世を憎むことのないようにと語った。それはなぜか。→ イエス様が「すべて兄弟を憎む者は人殺し」と語っておられた言葉を思い起こしてのこと。

●考えてみよう

1. 口先だけで、行いの伴わない愛は何と言われるか。→ 偽善。
2. 24節の「戒め」とは何か。→ 23節の戒めが実行されるときに多様性に富んだものとなって表れること。
3. ヨハネの心に刻み込まれた究極の神の愛は、どのようなものであったか。→ 十字架にかけられたキリスト様の姿。

●自分に当てはめよう

1. ヨハネにとっての終生の使命は、キリストが命じられた愛の戒めを身をもって実践することだった。この使命を共有しよう。

8/31

●話し合ってみよう

1. アンデレの兄弟は誰か。^{だれ}→ ペテロ。
2. アンデレの職業は何か。→ 漁師。
3. アンデレは最初誰の弟子だったか。→ 洗礼者ヨハネ。
4. アンデレは、ヨハネが紹介したイエス様のあとをついて行った。それはなぜか。→ 洗礼者ヨハネが、「見よ、神の小羊」とイエス様を指差して言ったため、この方こそキリストではないかと思ったのではないか。
5. アンデレの「わたしたちはメシヤに出会った」と言い得た確信は、どこから来たのか。→ アンデレ自身がイエス様との交わりによって与えられた。

●考えてみよう

1. アンデレは橋渡しの役を担った。何と何の橋渡しか。→ 洗礼者ヨハネと主イエス。
2. アンデレは主イエスに会ったことを黙っていたか。→ いいえ。
3. アンデレの最初の働きは何か。→ ペテロをイエス様に紹介したこと。これは魂をイエス様の下に導く働きである。

●自分に当てはめよう

1. アンデレは、主イエスにあった感激と喜びを自分だけのものにしなかった。このことをどう思うか。
2. あなたは主イエスを証しているか。^{あかし}また、証したい人がいるか。

9/7

●話し合ってみよう

1. ヨシュア（「主は救い」の意）の最初の名前は何か。→ ホセア（「救い」の意）。
2. ヨシュアは若いときから従者として仕えていた人は誰か。^{たれ}→ モーセ。
3. ヨシュアが敬虔を学んだのはどこか。^{けいけん}→ モーセのそばにあって、主に臨在に触れて敬虔を学んだ。
4. ヨシュアのイスラエル軍の指導者としての働きの最初は何か。→ アマレクとの戦い（出エジプト17：9～16）。
5. アモリびとの神々とは何であったか。→ ダゴン（ペリシテから継承された偶像）。
6. ヨシュアの果たした使命とは何か。→ カナン征服と、領土分割。

●考えてみよう

1. ヨシュアは「選りなさい」と言った。何を選ぶのか。→ イスラエルの神を信じて従うか、あるいは外国の神々を信じてそれに仕えるか。
2. イスラエルの民は、真の神に仕えると言った。なぜこのように告白できたのか。→ 自分たちを選び、ここまで導いてくださった神の数々の恵みを思い返してのこと。
3. この場合の「仕える」とは具体的にどういうことか。→ 礼拝するということ。

●自分に当てはめよう

1. 私たちもヨシュアのように「主にお仕えします」と告白しよう。

9/14

●話し合ってみよう

1. ナオミの家族はモアブの地に住むことになったが、それはなぜか。→ イスラエルに飢饉ききんがあったため。
2. モアブはどのような地であったか。→ 異教の地。
3. モアブの地に住み、生活することはナオミたちにとってどんなことであったか。→ 新しい地で新しく人間関係を築かなければならなかった。
4. ナオミは、イスラエルに帰ることにした。きっかけは何か。→ 夫と息子に先立たれ、またイスラエルに食物が与えられるようになったこと。

●考えてみよう

1. ナオミが、二人の息子の嫁にモアブに残るように言ったのはなぜか。→ モアブの地で幸せになってもらいたかったため。
2. ルツはなぜナオミと一緒にイスラエルに行こうとしたのか。→ ナオミの信じている神を信じてのこと。
3. ナオミは信仰的にも落ち込んでベツレヘムに帰ったが、慰めがあった。それは何か。→ ルツが共にいてくれること。

●自分に当てはめよう

1. 異邦人であったルツは、ボアズと出会い、やがて結婚する。キリストの家系となったのは、ナオミの信じている神を自分の神と信仰告白したことに始まる。私たちも親族や信仰の先輩を敬い、その信仰に倣い、祝福を受け継ごう。

9/21

●話し合ってみよう

1. ミデヤン人は、イスラエルに何をしたか。→ おいしく実った麦や野菜などを荒らして、何から何まで奪い取った。
2. イスラエルへの異民族の侵入は何を意味していたか。→ イスラエルの民が偶像礼拝に陥ったので、神の懲らしめとしての意味があった。
3. 主はイスラエルの民の救いを求める声を聞かれてどうなさったか。→ 指導者を遣わされた。

●考えてみよう

1. ギデオンは最初、神の語られることを信じることができたか。→ 信じることができなかった。
2. イスラエルを救い出すために召されたギデオンは最初どうだったか。→ 自信が無く、尻込みしていた。
3. ギデオンが踏み出したのは何によってか。→ 信仰によって。
4. ギデオンが最初にした働きは何か。→ 彼の父が持っている偶像の祭壇と偶像を壊すことだった。
5. 神が選ばれ用いられる人とは、どのような人か。→ 自分の弱さや無力さを知り、神の力に頼って従う人。

●自分に当てはめよう

1. 主の召しに「できません」と答えることは、謙遜けんそんではない。たとえどんなに弱く無力でも、神の力で強められ、用いられることを信じよう。

9/28

●話し合ってみよう

1. エリヤの出身地はどこか。→ ギレアデのテシベ（ヨルダン川東方の寒村）。
2. アハブ王が拝んでいた神とは何か。→ バアル（農地や家畜の生産を支配する豊穡ほうじょうの神とされた）、アシラひよく（肥沃と愛の女神とされた）。
3. アハブがこれらの神に従うようになったきっかけは何か。→ シドンの王の娘イゼベルが、イスラエルにこれらの神々を持ち運んできて、アハブ王が取り入れたため。

●考えてみよう。

1. エリヤは、アハブ王の前で「数年雨も露も降らない」と予言した。この予言にはどのような意味があるか。→ アハブ王とイスラエルの民が目覚まし、心を入れ替えて、生きておられるイスラエルの神に立ち帰らせるための期間が与えられたということ。
2. ケリテ川のほとりに身を隠すことは何を意味したか。→ 神の前に独りになり静まること。自分に頼らず神に頼ることを学ぶように。
3. からすの運んでくるパンと肉を食したエリヤだが、このことでエリヤは何を学んだだろうか。→ 自分の命を養われるのは神であること。

●自分に当てはめよう

1. 神は自然界を支配し、ご自身を信じる者に必要を備え、敵から守られる方であることを信じよう。